第10回ＪＬＡシミュレーション審査会
参加者募集要項

シミュレーション 2025

実施通知

2025年6月3日
救助救命本部
パトロールレスキュー委員会

■名　　称　　第10回ＪＬＡシミュレーション審査会
■目　　的

① 溺者・傷病者に対する救助救護技術の向上と、関係法令に遵守し、専門分野の有識者指導の下、ライフセーバー間の技術共有を目的とします。
② 医療機関まで『命をリレーする一員』として、ライフセーバーと公的救助機関との連携能力向上を目的とします。
③ 日本各地の活動環境にあわせたシミュレーションを実施することで、実施者、審査員ともに様々な想定を学び成長できる機会とするとともに、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。

■日程場所　　2025/11/02（日）神奈川県金沢区　海の公園
※今年度は、JLAが主催する審査会は上記1箇所になります。
別途、都道府県LS協会において開催希望地域がある場合は、調整しますので予めJLA事務局までご相談下さい。

■主　　催　　公益財団法人日本ライフセービング協会

■後　　援　　海上保安庁、消防庁、神奈川県、横浜市、公益財団法人横浜市緑の協会【各予定】
■協　　賛　　味の素株式会社、ソニー生命保険株式会社
■協　　力　　調整中
■審査項目

① 継続監視要領
② ライフセーバー間の連携要領
③ 傷病者への観察要領
④ 救急隊への引き継ぎ要領
⑤ 観衆への対応要領
⑥ 監視長の指揮要領
⑦ 資器材の適正な取扱い要領
⑧ 環境に配意した対応要領（感染対策含む）
⑨ 接遇要領
⑩ 関係者の対応要領

■想　　定　　想定の概略

① 審査長の「想定はじめ」の合図から審査開始とします。
② 原則６名態勢で通常の監視業務中に有事が起きたこととします。
③ 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは良好です。
④ 遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の３者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
⑤ 実施者により仮想１１９通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
⑥ 総括の指示で係員が計測を行い、総括の「想定終わり」の合図によって審査終了とします。
⑦ 想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項などを実施者にお知らせします。

実施時間
　１２分間（実施チーム数によって変更します）

実施人数
　原則６名　内訳(監視長１名　監視員５名)

使用資器材（地域によって変更の可能性あり）
① レスキューボード、レスキューチューブ×2、双眼鏡、パイプ椅子×3、拡声器、ＡＥＤ（訓練用ＡＥＤ、訓練用パット×２）、バックボード、傷病者記録票（バインダー含む）、ディスポグローブ×100、トランシーバー×4 基（仮想消防含む）、はさみ、滅菌精製水の入ったボトル、お湯の入ったボトル、氷のう×1、毛布、アルコールなど（事前に手に取って確認することができます）
② その他、普段監視業務などで使用している資器材の持ち込みを可能とします。
③ 傷病者に着用させる感染対策は各チームでご用意ください。
④ JLA の用意する AED パットについては実機用となります。訓練用とは違い粘着力が強くなっていますので扱いに慣れるために、期限切れの実機用パットを体験するなど準備しておくことをお勧めします。

■表　　彰　　審査結果により優秀チームを表彰します。

■審査員の構成等
① 審査員は主催団体本部から５名と地域クラブから８名、ＪＬＡスーパーバイザー、ＪＬＡメディカルダイレクター、外部審査員として消防庁様（若しくは消防関係者様）、海上保安庁様の原則約２０名の構成とします。（地域によって変更あります）
② 地域クラブ代表の審査員は原則２年連続従事せず、審査員経験者を増やしたく希望します。
③ 地域クラブ代表の審査員は、原則前の年に従事した地域クラブ代表の審査員により推薦され、救助救命副本部長により承認します。
④ 救助救命本部長は原則毎年、審査長として、救助救命副本部長は原則毎年、審査員として従事します。
⑤ アカデミー本部長、副本部長、委員長のうち１名が審査員として従事します。
⑥ スポーツ本部長、副本部長、委員長のうち１名が審査員として従事します。
⑦ 教育本部長、副本部長、委員長のうち１名が審査員として従事します。
⑧ 各審査員等に欠員が出た場合、救助救命副本部長の推薦により、救助救命本部長が承認することが可能とします。
⑨ 地域クラブ代表選出の審査員は、長年クラブ運営に携わり、多くのライフセーバー育成に貢献し、監視業務の連携活動に高度な審査が出来る者とします。また、公的救助機関との連携活動を審査出来る者を推薦・承認することとします。
⑩ 新規に開催される開催地の審査員の選抜は、当該都道府県協会の推薦した地域クラブが、上記⑨に該当する人物を選出（人数は各要相談）し、救助救命本部長が承認します。
⑪ ＪＬＡ各都道府県協会は、視察を兼ねて代表者１名を派遣していただき、審査会オブザーバーとして参加願います。

■エキストラの募集
受付先：ＪＬＡ事務局メール受付にてエキストラの公募を行います。
皆様のご協力よろしくお願いいたします。　Patrol@jla.gr.jp　担当　中山

■審査員の発表
実施日前迄にライフセーバーズなどで実施細部として別途お知らせします。

■実施細部の発表
ライフセーバーズで別途お知らせします。

■審査員及びエキストラへの事前説明会
実施日当日朝に行う予定です。
事前説明会実施場所や時間は別途該当者へ連絡します。

■審査結果及び検討推奨事項発表
2026 年２月６日（金）迄に協会ＨＰにて発表します。
検討推奨事項を次年度のパトロールの連携技能や審査会に活かしてください。

■参 加 費　　１チーム６，０００円

■参加チーム数
原則、最大 12 チームとし、申込順で締め切りとします。

■お申込み方法
1．参加者募集要項の全ての書類を良く読み、参加規定を承諾した上でお申し込みください。
2．参加者申し込みされた方は同時に同意書を承諾したものとみなします。
3．申し込み開始は、2025 年 8 月 8 日（金）12：00 からです。

Ｗｅｂエントリーすべての項目に記入願います

申し込みＵＲＬ→　https://forms.gle/LDNNesiJ8c2yhM92A

申し込みＱＲコード

4．参加費は**１チーム６，０００円**を申込締切日までに下記の口座へお振り込みください。恐れ入りますが振込手数料につきましては振込者側でご負担ください。

金融機関・支店名：	三菱ＵＦＪ銀行 新橋支店（店番４３３）
口 座 種 類 ・ 番 号 ：	普通　５２９８８４１
口 座 名 義 ：	公益財団法人日本ライフセービング協会 ザイ）ニホンライフセービングキョウカイ

※振込の際には、「チーム（クラブ）名略称 もしくは 振込者個人名」・「審査会」を必ず付けてください。　【入力例】浜松町・審査会

5．参加規定を満たしていない場合、Ｗｅｂ入力の不備、参加費の未納等は参加を受け付けない場合がありますのでご注意ください。また、各都道府県協会会員登録の手続きをされていない方、各都道府県協会会費未納のクラブは、本審査会に出場できませんので、予めご了承下さい。

6．全てのＷｅｂ申込入力事項はメモを取り、控えをお持ち下さい。

7．Ｗｅｂ申込入力事項の個人情報は、審査会プログラムに掲載される可能性があります。

8．参加申込および参加費振込みの締切りは**原則、最大１２チームとし、申込順で締め切りとします。**ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

■参考時系列

6/3(火)	都道府県協会に速報連絡
6/4(水)	協会 HP 及び FB で告知
6/5(木)	ライフセーバーズにて配信
8/08(金)	申し込み開始　12：00 から
	審査員候補者へ依頼開始
	エキストラ募集開始
各実施当日	審査結果発表
2/6(金)	迄に検討推奨事項発表

～お申し込み・お問い合わせ先～
公益財団法人　日本ライフセービング協会　担当　中山
〒105-0022 東京都港区海岸２丁目 1-16 鈴与浜松町ビル７階
ＴＥＬ：03-6381-7597
https://ls.jla-lifesaving.or.jp/　　info@jla.gr.jp
（電話お問い合わせ時間　１２：００～１８：００）

第 10 回ＪＬＡシミュレーション審査会
参加規定　及び　同意書

1　[参加資格]

実施者の参加資格は下記の３点を共に満たしている者、若しくは本協会が特別に参加を認めた者でなければならない。

（1）　実施者は、審査会当日満１５歳以上でなければならない。但し中学生を除く。
（2）　実施者は、ライフセービング活動を志し、出場する審査会の過去２年以内に海岸やプール等水辺での監視・救助活動、協会が認める教育活動に２５時間以上従事した者でなければならない。
（3）　実施者は、締め切り日までに、本協会の第１種から第６種の団体に登録していなければならない。
（4）　実施者は、ベーシック以上の資格を所有していなければならない。 実施者が高校生の場合は、ＢＬＳおよびＷＳ以上の資格を所有していなければならない。

2　[チームの参加資格]

（1）　チームは、締め切り日までに、本協会の第１種から第６種の団体登録が完了していなければならない。また、１団体からの出場は原則１チームまでとする（所属浜毎の出場を認めます。ただし、１日最大実施チーム数 12 を超えた場合は出場制限をかけます。）。ただし参加チーム数が多くなり、運営に影響があると判断された場合は出場数に制限をかける可能性があります。
（2）　チームは、同じクラブに所属する実施者により構成されていなければならない。

3　[出場登録]

実施者は、あらかじめ申し込み手順に沿ったＷｅｂエントリーをしなければならない。なお、エントリー後の参加者の変更は、パトロールレスキュー委員会に届け出て、認められなければならない。

4　[チーム代表者]

各参加チームはチームを代表する者としてチーム代表者を１名おかなければならない。なお、チーム代表者と実施者はこれを兼任することができる。

5　[服装]

（1）　各チームは、普段監視業務で使用するユニフォームを着用すること。ＪＬＡ公式ユニフォームを使用しているチームは、原則として当年度に配布されたユニフォームを着用する事。
（2）　ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般良識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる実施者も審査会に参加することができない。
（3）　チームのユニフォーム、水着、キャップ、ラッシュガードに審査会のスポンサーと対立するような商標、商標名があると主催団体が判断した場合、その対応は主催団体の指示に従わなければならない。
（4）　審査会主催者が指定する衣類（ラッシュゼッケン）を審査会中に着用していただくことがある。
（5）　新型コロナウイルス感染予防策として、2024 年 6 月 6 日ＪＬＡメディカルダイレクター、ＪＬＡ救助救命本部、ＪＬＡアカデミー本部通知（新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2024）（2025 年度の同ガイドラインが発表された場合は最新ガイドラインに準ずる）をよく確認して頂き、活動内容に応じて適切な感染予防を行ってください。

6　[参加費]

(1)　参加費は、１チーム６，０００円とする。
(2)　参加費は、参加申し込みの締め切り日までに支払わなければならない。
(3)　参加申し込み締め切り後の参加登録の取り消し、天候その他の理由により、やむを得ず中止になった場合でも参加費は返還されない。
(4)　実施者が欠場、あるいは失格となった場合でも参加費は返還されない。

7　[使用器材]

(1)　審査会に使用する器材は想定に示された物を審査会主催者が用意するが、その他、普段監視業務で使用している資器材の持ち込みを可能とします。ただし持ち込み器材が審査会中に破損した場合でも、審査会主催者は責任を取りかねます。
(2)　主催団体は、実施者の器材の検査・再検査を審査前、審査中、審査終了後任意に行うことができる。器材に著しい事前工作など、普段の監視業務での使用状態としてあり得ない場合は、実施者はその器材を使用できないか、または失格となる。
(3)　審査会主催者が指定する表示物を器材等に貼用していただくことがある。
(4)　傷病者に着用させる感染対策は各チームで用意すること。

8　[実施規則]

審査会実施人数は１チーム原則６名とします。ただし参加チーム内で６名確保が困難な場合は、JLA 事務局に事前連絡した場合に限り、審査会実施人数を１チーム４名若しくは５名の構成でも可能とします。

9　[その他]

(1)　審査会中に審査会主催者および審査会主催者が認めた者が撮影した写真、映像をライフセービングの広報の目的で使用することがあります。
(2)　審査会中に審査会主催者が撮影を制限したり、拒否したりすることがあります。
(3)　審査会主催者への登録事項に虚偽が認められた場合、審査会への参加や記録が取り消されることがあります。

想定 1

時間	項目
0 分	ライフセーバー（以下 LS)の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定始め』の合図で計測開始。
想定 1 開始 0 秒後 スタート	本部前波打ち際に足を前に投げ出して座っている傷病者 A、（会社員、高橋裕樹（ゆうき）若しくは裕子（ゆうこ））。ビーチパトロールの LS が声を掛けると、『砂浜を歩いていたら足の裏を火傷して歩けなくなった』と訴える。足の裏は、夏の暑い日差しに熱せられた高温の砂により、全体的に火傷し水膨れができている。一緒に来た友人とお酒を飲み、酔って痛みの感覚があまりなかったが、立てなくなり波打ち際で途方に暮れていた。LS に一緒に来た人がいるかと尋ねられたら、砂浜で酔って友達を埋めているグループを指さす。火傷を負っている高橋裕樹若しくは裕子は、想定２のグループの一員。 酔ってはいるが、意識清明、聞かれたことには全て応答できる。足裏の火傷以外は異常ない。 【想定のねらい】火傷の処置が適切に行えるか、足の裏の受傷のため歩行ができなので、その後の医療機関の受診をタクシーや飲酒していない友人の車で移動するアドバイスができるか。
想定２	朝から長時間に渡り飲酒をしていたグループが、その内の一人、傷病者 B(会社員・村田涼（りょう）若しくは涼子（りょうこ）年齢実年齢）を砂浜に穴を掘って埋めている。仰向けに寝かせ胸の辺りまで砂を掛けていると、白目を剥いて口より泡を噴き始める。友人たちは酔っているため『おい寝るなよ』と声をかけたり、頬を軽く叩いたりしていて事の重大さに気がついていない。グループの人は、酔っているが傷病者の名前や年齢、居住地は答えられる人が２名いる。 荷物は車に置いてあり、グループの中の誰かが取りに行くことは可能であるが、酔っているため戻って来れるか不安がある。 想定１の友人を探しに来た LS、若しくはビーチパトロールで通りかかった LS が声を掛けるが反応がない。 意識レベル３００、AED を使用した場合、解析するがショックの必要なし。外傷なし。アルコール摂取と暑さによる脱水状態で、熱中症。 【想定のねらい】重度の熱中症の CPA の対応。グループのメンバーも暑さの中飲酒しているため、いつまた誰かが熱中症を起こすかわからない状態であることへの対応ができるか。グループの中から傷病者 B の情報を答えられる者を探して情報を聞き出すことができるか。火傷の傷病者 A に対して、対応がおざなりにならず、救急隊に相談報告ができるか。傷病者に対しての感染予防対策は十分に行えるか。海水浴場の継続監視はできるか。 119 番通報は、トランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資機材多数：サブストレッチャー、隊長パック、吸引機、除細動器、酸素パック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長の指示で搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12 分後	車内収容完了、監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で計測終了。

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定 2

時間	項目
0分	ライフセーバー（以下ＬＳ）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 ●秒後ｽﾀｰﾄ 傷病者 A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	監視本部前の波打ち際から、傷病者 A（年齢実年齢、学生、宮城康太（みやぎこうた）又は涼子（りょうこ））、Aが、岩場で遊泳中に足底部（足の裏）に急激な痛みを感じ、監視本部まで介添え歩行で歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに足の裏の痛みが増してきたと訴える。足底部には黒い棘が認められる。ピンセットで引き抜いてくれと訴える。付き添いの友人が医療機関へ送迎可能 【想定のねらい】足底部に黒い棘が残っていることから、ガンガゼに刺された可能性がある。医療機関で切開して取り出す方が無難である。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけ含め傷病者 A が安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。無理やり抜く行為は NG）。④医療機関の受診を促せたか。⑤感染防止対策は十分であったか。
想定開始後 ●秒後ｽﾀｰﾄ 傷病者 B；監視本部前の波打ち際で歩行不可能	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 50m程度離れた波打ち際で大学生がアクロバットな遊びをしており、高いところからおかしな落ち方をしたと通報を受ける。通報者は、遊泳中の親子。 傷病者Ｂは大学のサークルで海水浴に訪れており、ふざけて「二人掛け後方宙返り」の練習をしていた。波打ち際に仰臥位、両手が弛緩した状態で手が痺れると訴える。また、首の後ろが痛むという。周囲にいた傷病者の友人も興奮して大声を出すなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。早く運べと詰め寄ってくる者もいる。3 回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち１名が、波打ち際 20m程度の位置にうつ伏せで倒れている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：ＬＳ接触時、呼吸正常、脈正常、手足は暖かい、意識清明の状態、左記状態以外は見たまま、 外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。）この時点では名前、年齢、生年月日のほか聞かれたことは答えることができる。 訓練用ＡＥＤを装着した場合は、解析するももちろんショックの必要なし（正常洞調律）。ライフセーバーがバックボード固定実施後１分で胃内容物逆流（食べ物含む）。胃内容物逆流 30 秒後に口唇チアノーゼとなり不穏状態になる、呼吸あり、橈骨動脈触れない。総頸動脈触れる。その後、「興奮してなぜ縛り付けるのか…」と言って救急搬送を拒否する。嘔吐物で一時気道閉塞し、低酸素状態で不穏になったと想定される。人定は傷病者本人に問いかけるも「何でこんなことをするのか…」と興奮状態。ただし, LS の適切かつ十分な説明により救急搬送承諾（救急隊到着前）。LS が救急搬送の必要性を適切に説明できない場合であっても, 救急隊到着後に「救急隊の判断としては病院受診が必要」と救急隊により説明し承諾。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、他の友達を探してくると訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着１分後まで戻ってこなくなる。友人のところへ向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（近藤健太郎(こんどうけんたろう)または幸子(のさちこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって 090-1234-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んで「二人掛け後方宙返り」をしていた。思ったより高く飛べず、首から落ち、気付いた時には波打ち際にうつ伏せで倒れている状態で、呼びかけに反応はあったが自分では起き上がれない状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のねらい】頚髄損傷による上肢の麻痺。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②バックボード固定の手技、③救急要請、④ログロールの手技⑤バックボードの扱いが適切かつ迅速であったか、⑥頸椎保護が十分であったか、⑦バックボード固定後の嘔吐への介助が適切であったか（バックボードごと横に向ける）⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視［重要］。⑪ライフセーバーの脊髄損傷傷病者への対応能力の把握⑫ライフセーバーがバックボード固定した状態での救急隊のネックカラー装着の検証
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：メインストレッチャー、ネックカラー、バックボード、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12 分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定 3

時間	項目
0分	ライフセーバー（以下ＬＳ）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 ●秒後ｽﾀｰﾄ 傷病者 A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	監視本部前の波打ち際から、傷病者 A（年齢実年齢、学生、宮城康太（みやぎこうた）又は涼子（りょうこ））、Aが、バーベキューをしていたところ熱せられた網を足の上に落としたという。監視本部まで介添え歩行で歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに足の甲の痛みが増してきたと訴える。足背部には水疱が認められる。消毒液による消毒と水疱の水分を抜いてくれと訴える。付き添いの友人が医療機関へ送迎可能 【想定のねらい】水疱が認められることから浅達性Ⅱ度熱傷である。冷水、氷嚢又は冷たいタオルで冷却し、水疱を破らずに医療機関で創傷被覆材などの治療が必要である。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけ含め傷病者 A が安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（すぐに被覆する。水を抜く行為は NG）。④医療機関の受診を促せたか。⑤感染防止対策は十分であったか。
想定開始後 ●秒後ｽﾀｰﾄ 傷病者 B；監視本部前の波打ち際で歩行不可能	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 50m程度離れた波打ち際で 70 歳代の男性又は女性が倒れていると通報を受ける。通報者は、遊泳中の学生。 傷病者Ｂは孫と海水浴に訪れており、朝の９時から昼の２時頃まで５時間程度孫を遊ばせていた。この日の気温は３０度以上、波打ち際に仰臥位、意識朦朧で体表面は温かい、発汗はなく。呼吸が早い。周囲にいた傷病者の家族は興奮して大声を出すなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。周りには「自分も酔っぱらって頭が痛いから観てくれ」とふざけている者もいる。毅然とした態度で、丁寧に接遇をすると概ね言うことを聞く。 海水浴客のうち１名が、波打ち際 20m程度の位置にうつ伏せで倒れている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：ＬＳ接触時、顔貌発赤、呼吸早い、脈は頻脈、手足は温かい、意識朦朧（JCSⅡ桁）、左記状態以外は見たまま、 外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。）この時点では名前、年齢、生年月日のほか聞かれたことは答えることができない。 訓練用ＡＥＤを装着した場合は、解析するももちろんショックの必要なし（洞性頻脈）。ライフセーバーがバックボード（又は担架）に収容後１分で胃内容物逆流（食べ物含む）。胃内容物逆流 30 秒後に口唇チアノーゼとなり不穏状態になる。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に家族（娘または息子）がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、車を取りに行ってくると訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着１分後まで戻ってこなくなる。車のところへ向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（林正太朗(はやししょうたろう)または幸子(さちこ))、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって 090-1234-5762）、住所（江東区清澄３丁目と回答）、高血圧と糖尿病がある。 その他、家族からの情報は、一緒に遊んでいたが徐々に具合が悪くなり目が虚ろになっていた。気付いた時には波打ち際にうつ伏せで倒れている状態で、呼びかけに反応はあったが自分では起き上がれない状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のねらい】熱中症疑い。傷病者の状態から重症の熱射病の可能性が高い、観察や関係者から聴取した情報を理解し、適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察②できるだけ早く高温環境から移動させる③迅速な救急要請④冷却方法は適切であったか（水で濡らして風を送る若しくは腋窩部又は鼠径部の冷却）⑤水分補給（家族が持っているスポーツドリンク）は適切かつ迅速であったか（無理には飲ませない）⑥関係者への説明は十分であったか⑦バックボード（又は担架）収容後の嘔吐への介助が適切であったか（頭部固定をしていなければ顔を横に向ける）⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視［重要］。⑪一緒に遊んでいた孫の所在確認
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：メインストレッチャー、ネックカラー、バックボード、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12 分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定４

時間	項目
０分	ライフセーバー（以下ＬＳ）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 ０秒後ｽﾀｰﾄ 傷病者Ａ；監視本部前の波打ち際から自力歩行	監視本部前の波打ち際から、傷病者Ａ（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらはぎ）に急激な痛みを感じ、更に、痛みにより興奮したところ鼻出血が止まらなくなった状態で監視本部まで歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 【想定のねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのか不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけ含め傷病者 A が安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為は NG）。④鼻出血に対して適切な手当ができたか。⑤感染防止対策は十分であったか。
想定開始後 45 秒後ｽﾀｰﾄ 傷病者Ｂ；監視本部前の波打ち際で意識不明	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 40m程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者 B）が引き上げられたようだと通報を受ける。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ) ）。 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部に来たが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者 B（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル 300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3 回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち１名が、波打ち際 20m程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：ＬＳ接触時、呼吸、脈、意識なしの状態から CPA と判断、左記状態以外は見たまま、 外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。） 訓練用ＡＥＤを装着した場合は、解析するもショックの必要なし。ライフセーバーが CPR 実施後１分で胃内容物逆流（食べ物含む）。胃内容物逆流 30 秒後に清明ではないものの意識回復（レベル 30）、呼吸あり、橈骨動脈触れない。総頚動脈触れる。その後、「もう大丈夫だから…」と言って救急搬送を拒否する。直前まで意識レベル 300 であり、大量の海水を飲んでいると想定される。人定は傷病者本人に問いかけるも「もう大丈夫だから…」としか回答しない。ただし，LS の適切かつ十分な説明により救急搬送承諾（救急隊到着前）。LS が救急搬送の必要性を適切に説明できない場合であっても，救急隊到着後に「救急隊の判断としては病院受診が妥当」と救急隊により説明し承諾。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに 300m離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着１分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって 090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のねらい】溺水により当初は意識レベル 300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPA の判断、③救急要請、④CPR の実施、⑤AED の扱いが適切かつ迅速であったか、⑥CPR 中断の判断、⑦救急搬送拒否の対応の各段階で適切な対応ができているか。搬送拒否の傷病者に対しては、救急搬送が必要な理由（肺炎、呼吸悪化、湿性溺水による肺水腫や感染の恐れなど、病院受診の必要性）を適切かつ十分に説明できているか。また、⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視［重要］。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12 分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定５

時間	項目
０分	監視員（以下ＬＳ）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視　監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 0 秒後ｽﾀｰﾄ 本部前波打ち際から	監視本部目の前の波打ち際から、傷病者Ａ（年齢実年齢、会社員、廣川健太(ひろかわけんた)若しくは良子(よしこ)）が、ボディーサーフィン中に前転してしまい、おでこ(前頭部)を海底（固く締まった砂）に強打し、頸部に鈍い音を感じた直後から両肩から先に刺すような痛みを感じ、両上肢が激しい痛みと共に動かなくなったと訴えつつ自力歩行可能な状態で、監視本部まで歩いてきた。時間経過とともに痛みが増してきたと訴える。 想定のねらい：受傷部位頸椎損傷。観察や傷病者から聴取した情報を理解し適切な処置ができるか 想定の流れと説明：救急要請を実施しつつ、頸部に動揺を与えないよう適切な固定を実施できるか。また、時間経過とともに容態変化の可能性も予測し、継続的な呼びかけや容態観察バイタルの変化など記録し救急隊に引き継げるか。 更には、監視本部に自力歩行できた傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。
想定開始後 45 秒後ｽﾀｰﾄ 浜から駆け寄ってくる	監視本部前の波打ち際から通報者が駆け寄ってくる。監視本部から 150 m程度離れた 浜に常設のトイレ前の砂浜で人が倒れていると通報を受ける。 通報者は、 近隣民宿（はまゆう荘）の従業員（年齢実年齢、バイト、江連洋二(えづれようじ)若しくは里穂(りほ) 。常設のトイレ前の人だかりを確認すると、集団で飲酒を行い、そのうちの一人が過度な飲酒により、激しくおう吐を繰り返し意識混濁のため危険と判断し、監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者 （年齢実年齢、アパレル従業員、鈴木学(まなぶ)若しくは咲(さき)。側臥位。周囲に飲酒したであろう酒類が落ちている。 周囲にいた傷病者の同僚も酩酊状態で大騒ぎしている。泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。概ね６人程度。 傷病者バイタル： ＬＳ接触後１分で連続３回 胃内容物逆流 飯類大量に準備、その後に、意識レベル 300)、上記状況以外は見たまま、 外傷無し。 （皮膚が赤い等はムラージュで表現負荷想定は傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する。） 訓練用ＡＥＤした場合は、解析するもショックの要なし。 レベル 300 、呼吸あり、脈総頸触れる。急性アルコール中毒。観衆による活動障害。 関係者友人Ｂは、LS が常設のトイレ前に来た時に現れる。酒に酔っている。更には慌てており、LS 接触後３０秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに権兵衛という民宿まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到１分後まで戻ってこなくなる。 民宿に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル従業員、鈴木学(まなぶ)若しくは咲(さき))、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答 090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者は深酒のため寝たものだと思い込み、おう吐していることに気づかなかった。気付いた時には呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20 分前の出来事。関係者（友人）は救急車に同乗可能。 想定のねらい：急性アルコール中毒。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な処置ができるか。 想定の流れと説明：救急要請を実施しつつ、先の頸椎損傷の傷病者に対して活動優先順位を救急隊に相談報告し判断できるか。時間経過とともに容態変化の可能性も予測し、継続的な呼びかけや容態観察バイタルの変化など記録し救急隊に引き継げるか。 更には、傷病者に対しての感染防止対策は十分行えるか。セカンド・サードとの感染対策の連携は十分であったか。継続監視は十分できているか【重要】。 １１９番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始　それまでは救急隊は観察継続
想定開始 12 分後	車内収容完了　監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定 6

時間	項目
０分	監視員（以下ＬＳ）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視　監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 ０秒後スタート 本部前波打ち際から	監視本部目の前の波打ち際から、関係者友人Ａ（年齢実年齢、会社員、関康人(やすと)若しくは康子(やすこ)）に肩を貸してもらいながら、びっこを引き、『何かに足の甲を挟(はさ)まれた』『痛い…』と訴え、監視本部内に侵入してくる。傷病者(年齢実年齢、自営業、小林典夫(のりお)若しくは典子(のりこ))。水深 30ｃｍ位の波打ち際で激痛を覚える。時間経過とともに痛みが増し、座ってもいられなくなる。 想定のねらい：受傷原因はアカエイ刺傷によるアナフィラキシーショックを理解し適切な処置ができるか 想定の流れと説明：アカエイ刺傷では、たんぱく質毒のため ４０℃程度のお湯に浸さない限り痛みが治まらない。 傷病者本人は何が起きたのかアカエイ自体を視認していないので原因がわかっていない。 受傷部位が足の足底で痛みが増してくる。刺入部には発赤をともなう傷がある。 毒針による穿通時は挟まれたような感覚もある。 湯に浸けて痛みを軽減する処置ができるか判断が必要である。 バイタル：意識清明、その他実測通り、容態変化は温める行 為が監視本部着３分以内に無いとのたうち 回るほど痛みが増す。
想定開始後 ４５秒後スタート 海の家から駆け寄ってくる	海の家から駆け寄ってくる監視本部から 150 m程度離れた 海の家（菊水）内のシャワー室で人が倒れていると通報を受ける。 通報者は、 海の家（菊水）の従業員（年齢実年齢、バイト、佐伯修司(さえきしゅうじ)若しくは修子(なおこ) 。シャワー室で倒れているのを発見し、監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者 （年齢実年齢、アパレル経営役員、永山満(みつる)若しくは満江(みつえ)。海の家 菊水内シャワー室。側臥位 傷病者バイタル：（生体中川委員） ＬＳ接触後１分で連続３回 胃内容物逆流 飯類大量に準備、その後に、意識レベル 300 ）死戦期呼吸に移行（ＬＳ接触後２分間、補助呼吸実施していたら 3 分以降は呼吸なし）、上記状況以外は見たまま、 外傷無し。 （皮膚が赤い等はムラージュで表現負荷想定は傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する。） 訓練用ＡＥＤにより、解析開始、ショック その後レベル 300 、呼吸無し、脈総頸触れず、 外傷無し 関係者友人Ｂは、LS が海の家に来た時に現れる。慌てており、LS 接触後３０秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到１分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（年齢実年齢、アパレル経営役員、永山満(みつる)若しくは満江(みつえ))、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答 090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、浜辺で遊んでいたが、傷病者は気分が悪い、足がつったと一人で海の家に戻ったところまで知っている。20 分前の出来事。 関係者（友人）は救急車に同乗可能（駐車場自家用車はどうすれば…） １１９番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始　それまでは救急隊は観察継続
想定開始 12 分後	車内収容完了　監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定７

時間	項目
０分	監視員（以下ＬＳ）詰所テント（以下監視台）に実施チームは待機 固定監視　監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始
想定開始後 ０秒後スタート 本部前波打ち際から	監視本部目の前の波打ち際から、傷病者(年齢実年齢、自営業、小野典夫(のりお)若しくは典子(のりこ))。浜で硬球を使ってキャッチボールをしていたところ、右上肢中指と薬指の間に硬球が直撃し、同手掌部位が４ｃｍ裂創したもの。友人など付き付き添いは無し。自力歩行で監視本部に来るも、激しい痛みと出血が著しい状態で苦悶の表情。 ブラインド想定：氏名などの人定以外はなし。所持品などは海の家にある。付き添いは来ない。
想定開始後 ４５秒後スタート 海の家から駆け寄ってくる	想定 ２ のねらい　水上バイク陸上搬送中に固定具がはずれて右下腿に落下する想定　出血性ショックと神経原性ショックを鑑別できる。 想定のながれ 監視本部から 150m程度離れた海の家（一品香(いっぴんこう)）裏の高台から人が落ちて、骨折したようだと通報を受ける。 通報者にあっては、海の家（一品香）の従業員（年齢実年齢、バイト、雲藤修司(うんどうしゅうじ)若しくは修子(なおこ)。海の家裏で人が集まり騒いでいたことから傷病者がいることを認知した。監視本部に来たが、いつから倒れていたか、前後の状況は全く分かっていない。 傷病者（年齢実年齢、会社役員、日高　満(みつる)若しくは満江(みつえ)。海の家一品香裏のスロープから水上バイクを陸揚げしていたところ、水上バイクが台車から脱落し、右下腿が下敷きになり、右下腿が変形損傷しているもの。この時日高満は水上バイクを後ろから押していた。 主訴：右下腿の変形と痛み、後頭部を打撲、頭皮から微出血擦過傷軽度の痛み、右下腿の痛みがひどく自力歩行困難。側臥位。足の上に載っていた水上バイクは関係者が移動して現場には無くなっていた。 傷病者バイタル：（生体中川委員、意識レベル清明だが激しい痛みのため質問にほぼ答えない。水上バイクの脱落事故とだけ話すことができる。 観察所見：顔面蒼白、橈骨動脈蝕知せず、徐脈をともない、四肢末梢の皮膚は冷たく、冷汗、呼吸は浅くはやい・回数実測、脈は徐脈とするが実測　。 上記状況以外は見たまま。（負荷想定は傷病者の胸部に付加想定項目を表記する。 処置：下腿の固定（身の回りの機材で）とショック体位、ABC の繰り返しの確認、保温　救急隊への引継ぎが適正に行う 関係者友人 A は、LS が海の家に来た時に現れる。慌てており、LS 接触後３０秒間は傷病者に『どこが痛い？首痛くないか？大丈夫だから！』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到１分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前　（年齢実年齢、アパレル経営役員、日高満(みつる)若しくは満江(みつえ))、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答 090-7000-5762、住所は回答できない鎌倉市材木座とだけ回答。 関係者（友人）からの情報は、海の家(一品香)裏のスロープから水上バイクをバギーでけん引し陸揚げしていたところ、水上バイクが台車から脱落し、慌てて後ろを見に行ったら日高満の右下腿が下敷きになっていたので、周囲の観衆に手伝ってもらい水上バイクを台車に戻し、日高満を観衆に任せて、水上バイクを駐車場までけん引して戻ったところ。事故は 20 分前の出来事。 関係者（友人）は救急車に同乗可能（駐車場自家用車はどうすれば…） １１９番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始　それまでは救急隊は観察継続
想定開始 12 分後	車内収容完了　監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定 8

時間	項目
0 分	ライフセーバー（以下ＬＳ）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 0 秒後スタート 傷病者 A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	監視本部前の波打ち際から、傷病者 A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらはぎ）に急激な痛みを感じ、監視本部まで歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 また、上記の受傷した際に驚き右に転倒した。岩場に右前腕をつき、同位置に 5ｃｍ程度の裂創、出血している。 【想定のねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのか不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけ含め傷病者 A が安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為は NG）。④感染防止対策は十分であったか。⑤右前腕の裂創に対して止血を含む対応は適切であったか。
想定開始後 45 秒後スタート 傷病者 B；監視本部前の波打ち際で意識不明	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 40m程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者 B）が引き上げられたようだと通報を受ける。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)）。 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部に来たが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者 B（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル 300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3 回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち１名が、波打ち際 20m程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：ＬＳ接触時、呼吸、脈、意識なしの状態から CPA と判断、左記状態以外は見たまま、 外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。） 訓練用ＡＥＤを装着した場合は、解析するもショックの必要なし。実機用パットのため粘着力強。ライフセーバーの CPR 実施は訓練用ダミーを用意。バイタルの観察は生体を使用。呼吸なし、橈骨・総頚動脈触れない。大量の海水を飲んでいると想定される。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに 300m離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着 1 分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって 090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のねらい】溺水により当初は意識レベル 300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPA の判断、③救急要請、④CPR の実施、⑤AED の扱いが適切かつ迅速であったか。AED パットの貼り付け位置が適切であったか。⑥CPR 中断の判断、⑦CPR 若しくは EAR を継続し、必要であればライフセーバー間の交代や連携はスムーズであったか。⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視［重要］。⑪溺水に伴う脈の観察でどの動脈を選択したか。⑫リトルアンを使用するため形だけではない人工呼吸や胸骨圧迫が適切に実施されているか。⑬意識・呼吸・脈の確認を形式的でなくしっかりと観察できているか。⑭注意事項；JLA では、「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2024（2024 年 6 月 6 日）」に示したように、2024 年度はマウス・トゥ・マスクによる人工呼吸は傷病者と救助者の顔が至近になるため推奨していませんが、溺水の場合は低酸素血症が心停止の原因であることから、第 9 回シミュレーション審査会では、感染対策（HEPA フィルター付きポケットマスクの使用）をしたうえでの人工呼吸の実施は加点対象とします。HEPA フィルターは高価であることから、ポケットマスク及び一方弁がある場合に限り、HEPA フィルターが装着されているものとみなします。なお、BVM は使用については JLA 活動ガイドラインで推奨していないことにご注意ください。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12 分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。